

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23402005

研究課題名(和文)都市縮小/再生のガバナンスに関する研究 - - デトロイトを事例に

研究課題名(英文)A Study on Shrinking Cities and Urban Regeneration : A Case Study of Detroit

研究代表者

矢作 弘 (Yahagi, Hiroshi)

龍谷大学・その他部局等・教授

研究者番号：40364020

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,600,000円、(間接経費) 2,280,000円

研究成果の概要(和文)：デトロイトは典型的なポスト工業化の縮小都市である。縮小の背景、現状を調査する一方、都市再生の状況を調べ、都市再生を促進する都市社会システム(ガバナンス)を明らかにした。都市政府は十分には機能せず、機関(大学+病院など)、企業、財団がネットワークを構築し、再生の局面で重要な役割を果たしている。同時に、自生的な小規模企業が生まれ、デトロイトのランドスケープを変容させている状況を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：Detroit is a typical shrinking city at the post-industrial age. The urban social systems (governance) that are promoting urban regeneration could be pointed through studying the background of shrinkage and the forms of today. In Detroit the city government has not worked well in the urban regeneration, and the networks among institutions (universities, hospitals and so on), companies and foundations are working better and playing important roles there. At the same time small-size companies are born and changing the landscape of Detroit.

研究分野：社会・安全システム科学

科研費の分科・細目：社会システム工学・安全システム

キーワード：縮小都市 モーターシティ 持続可能性 デトロイト

### 1. 研究開始当初の背景

世界の都市が縮小している。人口 10 万人以上都市の 1/4 が人口を減らしている。特に、先進諸国で、ポスト工業化都市の縮小が顕著である。

日本の場合、人口 10 万以上都市のほぼ過半が縮小都市である。それ以下の人口規模の都市では、さらに深刻であり、「限界都市化」するところがある。

「縮小都市」が 21 世紀の基本的な都市類型の 1 つになる。

しかし、縮小都市研究は、まだ歴史が浅い。ヨーロッパで活発に行われるようになったが、日本では、ようやくはじまるところである。

東西ドイツの併合後、旧東ドイツ諸都市が激しい人口の減少を経験し、総合的な縮小都市政策の立案を迫られるようになった。それが政策研究の発端になっている。

### 2. 研究の目的

これまでの都市政策は都市の成長を前提に編み出されてきた。あるいは、開発・拡張のための都市研究であった。

都市の縮小を前提に、政策立案をするためにはパラダイムの転換が求められる。

持続可能な縮小都市の「かたち」を示し、それを達成する都市社会システムを明らかにすることが本研究の目的であった。「かたち」は、単に建築的、可視的な都市空間を意味しない。それを含めて人々の「働き方/暮らし方」の総体である。

どのような都市社会システムが形成され、機能すると持続可能な縮小都市の「かたち」を達成できるか、それを明らかにすることを目指す。

### 3. 研究の方法

現地での聞き取り、及び文献研究。

デトロイトの事例研究をすることにした。

#### <その理由>

1. 自動車産業は裾野が広く、20 世紀の産業社会で大きな影響力を發揮してきた。

2. 経済のグローバル化の中で、経済の世界化を牽引した産業である。

3. 車に乗って生活が成立する郊外暮らし - アメリカン・ウェイ・オブ・ライフを演出した産業都市であった。

以上の意味からデトロイトはしばしば、「アメリカの首都」と呼ばれることもあった。その盛衰、特に縮小に注目して縮小都市の研究とすることにした。

デトロイトは中西部にある「赤錆地帯の旧産業都市」であった。デトロイトと同じ状況下にあるクリーブランド、トレドなどの都市事情を理解する上でもデトロイト研究は好材料である、と判断した。

#### <研究班>

都市の縮小は多様な時代事情を背景におきている。

1. 政治 (東欧の政治体制の転換)

2. 郊外化 (車社会の進展、強い戸建て住宅の持ち家志向)

3. 少子化 (所得のアップ、子供教育投資、「結婚年齢のアップ 生活価値観の変容と出生率)

4. 産業構造の転換 雇用危機の喪失 (重厚長大産業の転出、新しい都市型産業の創出過程で雇用機会が失われる)

こうした多様な条件の変化を背景に、都市の縮小がおきている。

したがって研究班は社会科学 + 自然科学系の研究者で構成し、学際的な問題意識と課題解決のための学際的アプローチを重視することにした。

### 4. 研究成果

デトロイトでは、都市政府が財政破綻した。その際、ニュース報道は、「デトロイトの将来、真っ暗！」というものが圧倒的に多かった。

しかし、現地調査では、そうした見方に与しない話を聞き取り出来たし、多くの「都市再生の胎動」を実際に観察することができた。 <都市農業> <アート活動> (ベンチャービジネス) <ダウタウンの再活性化> <都心帰りの傾向> …である。

それらの再生の動きが、如何なる都市社会システムによって支えられ、促進されているかを明らかにした。

すなわち、政府が機能しない環境下、機関 + 企業 + 財団が都市社会システムを構築し、機能している。

一方、同じモーターシティのトリノでは、対照的な都市社会システムが働いているのではないか、という知見を得、問題意識を発展させることができた。

また、若手研究者に、縮小都市研究に関する関心を持ってもらう、貴重な機会にすることができた。

加えて海外の縮小都市研究者と連携を組む機会にでき、ミラノ工科大学院生 (トリノ vs. デトロイト研究) を招聘し、研究会を開催できた。こうしたチャンスが 2014-2016 年度の科研申請に、問題意識を発展的に継承することにつながった。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

1. 矢作弘 「縮小最先端都市デトロイト」地域開発 2012 年 569 号 p.2-6 査読無し

2. 矢作弘 「「緑のデトロイト」として再生を目指す」地域開発 2012 年 569 号

p.35-38 査読無  
3. 岡部明子「都市の終末ケア？」地域開発  
2012年 569号 p.2-15 査読無  
4. 西山八重子「人種問題に苦しむ 縮小都市」地域開発 2012年 569号 p.16-21  
査読無  
5. 西山志保「クリエイティブ産業は都市を再生させるか？」地域開発 2012年 569号  
p.22-26 査読無  
6. 阿部大輔「アウトリーチ活動がデトロイトの風景を治癒する」地域開発 2012年  
569号 27-34号 査読無  
7. 明石芳彦「デトロイトにおける自動車産業の変遷」地域開発 2012年 569号  
p.39-44 査読無  
8. 矢作弘「縮小都市トリノ - 都市構造の転換と文化的景観の変貌」龍谷政策学論集  
2012年 2-1 p.1-11 査読無  
9. 明石芳彦「都市再生に向けて地域産業基盤形成」地域開発 2013年 584号 査読無  
10. 岡部明子「デトロイト都市農業の2つの道」地域開発 2013年 585号 査読無  
11. 矢作弘「デトロイト：都心再生の胎動を探る - ウッドワードアヴェニュー」地域開発  
2013年 586号 査読無  
12. 阿部大輔「プランニングの「統合」はデトロイトを再生するか」地域開発 2013年  
587号 査読無  
13. 矢作弘「デトロイト最新事情-甦るウッドエアーダヴェニュー」地域開発 2013年  
587号 p.53-56 査読無  
14. 矢作弘「デトロイト破綻の教訓」日本経済新聞「経済教室」2013年 査読無  
15. 矢作弘「縮小都市デトロイトの破綻、その再生の胎動」都市問題 2013年 104号  
p.29-34 査読無  
16. 矢作弘「地方都市の「かたち」を考える」Re 2013年 108号 p.39-42 査読無  
17. 矢作弘 The Nagasaki Model of Community Governance (担当章), Shrinking Cities(書籍) 2014年 Routledge 査読無  
18. 矢作弘「縮小都市デトロイト市の破綻と都市再生」市政研究 2014年春 183号  
p.42-52 査読無

〔学会発表〕(計2件)  
矢作弘「賢く、より小さく成長するのは難しい」名古屋大学 COE プログラム 国際シンポ  
2013年 10月 3日

矢作弘 Making Communities Sustainable under Depopulation and Rapid Aging : The North-Central Area of Kyoto Prefecture in Anguish over Depopulation, COST エッセン(独) 2013年 9月 12日

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1)研究代表  
矢作弘(YAHAGI, Hiroshi)  
龍谷大学・政策学部・教授  
研究者番号：  
40364020  
(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
岡部明子(OKABE, Akiko)  
千葉大学・大学院工学研究科・教授  
研究者番号：70361615

西山八重子(NISHIYAMA, Yaeko)  
金城学院大学・現代文化学部教授  
研究者番号：10164617

西山志保(NISHIYAMA, Shiho)

立教大学・社会学部・准教授  
研究者番号：50402087

阿部大輔(ABE,Daisuke)  
龍谷大学・政策学部・准教授  
研究者番号：50447596

明石芳彦 (AKASHI, Yoshihiko)  
大阪市立大学・大学院創造都市研究科・教授  
研究者番号：00150970